

就労支援セミナーin 下関

主催：NPO 法人就労継続支援 A 型事業所全国協議会
山口県就労継続支援 A 型事業所協議会
福岡 A 型事業所協議会
協力：公益財団法人ヤマト福祉財団

「A 型のあるべき姿とは？」

～地方の未来を考える～

日時 2023 年 10 月 14 日（土曜）13：00-17：00

会場 海峡メッセ下関 海峡ホール（山口県下関市豊前田町 3-3-1 国際貿易ビル 9 階）

◆開会・開会挨拶

NPO 法人就労継続支援 A 型事業所全国協議会 久保寺一男より挨拶

◆来賓紹介・挨拶

公益財団法人ヤマト福祉財団 山内雅喜氏より挨拶
下関市障害福祉課長より挨拶

◆講演「これからの A 型に期待する姿」 厚生労働省福岡労働局長 小野寺徳子氏より

今年 7 月まで厚生労働省の障害者雇用対策課課長をされていて、A 型に関連する制度等にも深く関わってきた経験から雇用の立場で A 型のあり方を語りたい。

障害者雇用に関するビジネスが出てきた。雇用と福祉の連携強化でも本人が一般就労への移行を望まない場合や能力的に実際には難しい場合もある。精神障害では週 20 時間未満であれば企業で働きたい人も一定数おり、今後は医療モデルから社会モデルへ転換していく中で就労の困難性をどう評価していくのか検討がされていく。人材不足も進んでいる中で、事業運営が難しいところはあると思うが、それぞれの立場で課題解決していきたい。



◆記念対談

「A型のあるべき姿を語り合う-事業所と社会は利用者の『希望』に応えているのか？」

(株)インサイト代表取締役 関原 深 氏

埼玉県立大学名誉教授/日本職業リハビリテーション学会会長 朝日 雅也 氏

A型が果たす役割には大きな期待が寄せられる一方、解決すべき課題も少なくない。利用者の支援ニーズに関する実態調査の結果を切り口に、利用者の「希望」に応えるA型のあるべき姿に迫りたい。事業所は、そして社会は、どう向き合っていけばいいのか。根源的な問いに基づくダイアログが展開された。

利用者ニーズから見える利用者ウォンツとは。A型事業所の経営力と支援力の両輪が必要であり、赤字の事業所では長期的な計画を構築することと支援力が弱いと見える。スコアの評価でも研修やスキルも重要であるが経営的な評価に重要性を感じる。



◆パネルディスカッション「地方でのA型経営」

コーディネーター

福岡A型事業所協議会事務局長 島野 廣紀 氏

パネラー

山口県就労継続支援A型事業所協議会代表 竹光 道治 氏

福岡A型事業所協議会理事 牧本 貴宏 氏

合同会社煌 業務執行役員 田口 直樹 氏

できる人を就職させることの難しさ（やりにくさ）もあるのでは。本人の選択肢があることが重要なのではないだろうか。就職（一般就労）にだけ拘ることはどうなのか。

A型は雇用であり、社会人としての選択肢の一つで重要な役割を担っている障害者にとってA型は社会資源。

A型事業所には雇用の責任もある。利用者には労働者性を担保しないとイケない。



◆優良 A 型事業所認定発表

優良 A 型認定事業委員長 朝日 雅也 氏

優良 A 型認定事業所申請 9 事業所すべてで認定となった。

特徴として長期的に利用者の特性活かせるような展望がされていること。個別の支援が重視されていること。利用者のストレングスにコミットしていることなどが挙げられる。

障害のない人と協働していたり、地域の人とインクルーシブな環境で働いている。今回初めて関わらせて頂くことになって、審査が甘くなつてはいけないと思うけど、良貨が悪貨を駆逐していくのだろうと思った。

◆お知らせ・閉会挨拶・閉会

福岡 A 型事業所協議会代表 井上 靖 氏

これからの A 型の進む道は厳しい。雇用率ビジネスの問題、支援をしながら労働する難しさ。A 型をこれからどう残していくか。全 A ネットとも 2/17 北九州セミナーもある。各研修会で顔の見られる関係をつくっていききたい。全 A ネットは国のヒアリング団体にもなっていて、是非、ご加入ください。

報告者 白井崇晃（社会福祉法人はる）